

チェックテスト

おすすめの使い方

✓ 問題集を使用する前の**実力チェック**に！

問題集に取り組む前に解くことで、現状の実力を確かめることができます。わからなかった問題があったら、そこが自分の弱点です。本冊のまとめページをよく読んでから、標準問題、最高水準問題に取り組みましょう。

✓ 問題集を使用しているときの**理解度チェック**に！

標準問題を解いていて、わからない問題が多いときは、チェックテストを解いて基本事項を理解できているか、確認しましょう。

✓ 定期テストや入試直前の**総復習**に！

テスト直前に解くことで、中学3年間分の学習内容の大事なポイントをまとめておさらいすることができます。

チェックテスト

解答 別冊 P. 1

1章 論理的文章の読解

1 部分をとらえる

↓ P. 14

▼ 次の文中の [] にあてはまる接続語を、あとのア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

□ 1 都会には大学や企業がたくさんある。 [] 多くの若者が集まってくる。

□ 2 インターネットは情報を入手するのに便利だ。 [] 、フェイクニュースなどにだまされる危険性もある。

ア 例えば イ だから ウ つまり エ しかし

▼ 次の文中の——線部が指している内容を簡潔に答えなさい。

□ 3 科学は実生活ですぐには役立たないが、人間が世界を認識する基本的な枠組みを提供する。それが科学の最も重要な役割だ。

「 [] 」

2 全体をとらえる

↓ P. 36

▼ 次の文章の要旨として最も適切なものを、あとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

□ 4

著作権の都合により掲載しておりません。

*外人 集団外部の人間。

(加藤周一『日本文化における時間と空間』より)

ア 伝統的な日本のムラは、外部と明瞭な境界をもっていた。

イ 山の向こう側はムラの外側で、外人が住んでいた。

ウ 平地の農村の境界には、際立った標識が示されていた。

エ 伝統的な日本のムラは、山峡や盆地にあった。

「 [] 」

2章 文学的文章の読解

3 部分をとらえる

↓ P. 58

▼ 次の文章の——線部での「兄」の心情として最も適切なものを、あとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

□ 5 中学二年生の兄と小学四年生の弟は、夏休みに二人で父の郷里の四国へ行くことになり、見送りの家族と一緒に船着場にやって来た。

「 [] 」

著作権の都合により掲載しておりません。

*兄 三人兄弟の一番上の兄。

(庄野潤三『ザボンの花』より)

ア 弟といっしょではなく、一人で旅行に行きたい気持ち。

イ 子どもだけで旅行に行くため、張り切っている気持ち。

ウ 年下の弟を連れての旅行に不安を感じ、心細い気持ち。

エ 旅行でうきうきして、落ち着かない気持ち。

「 [] 」

4 全体をとらえる

↓ p. 80

▼ 次の文章で描かれている「先輩」の人物像として最も適切なものを、あとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

□ 6

著作権の都合により掲載しておりません。

(小嶋陽太郎『ぼくのとなりにきみ』より)

- ア 静かに絵を描くことが好きな物静かな人物。
 イ 好きなことをしているときは我を忘れてしまう人物。
 ウ 絵を描く技術が人並はずれて優れている人物。
 エ 丁寧に作業することに異常なこだわりをもつ人物。

3章 韻文の読解

5 詩

↓ p. 102

▼ 次の文に用いられている表現技法を、あとのア～キから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- 7 明日は私の誕生日。
 □ 8 帰り道をとぼとぼと歩いた。
 □ 9 このチーズは絹のようになめらかな食感だ。
 □ 10 今にも泣きだしそうな空模様だ。

ア 直喩 イ 隠喩 ウ 擬人法 エ 倒置
 オ 体言止め カ 擬態語 キ 擬声語

6 短歌

↓ p. 106

▼ 次の短歌は何句切れか。あとのア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

□ 11 白鳥は哀しからずや空の青海のあをにも染まらずただよふ

わかやまほくすい
若山牧水

ア 初句切れ イ 二句切れ ウ 三句切れ
 エ 四句切れ オ 句切れなし

▼ 次の短歌で字余りになっている句をすべて抜き出しなさい。

□ 12 最上川の上空にして残れるはいまだうつくしき虹の断片

さいとうもきち
斎藤茂吉

7 俳句

↓ p. 111

▼ 次の俳句で用いられている季語を抜き出しなさい。また、季語が表している季節を答えなさい。

□ 13 をりとりてはらりとおもきすすきかな

季語 「 」 季節 「 」
 いいだ 飯田蛇笏

□ 14

季語 「 」 季節 「 」
 なかむらくさ 中村草田男

▼ 次の俳句で用いられている切れ字を抜き出しなさい。

□ 15

なかむらていじょ
中村汀女

□ 16 いくたびも雪の深さを尋ねけり

「 」 「 」
 まさおかし 正岡子規

4章

古典の読解

8 古文の基本

↓ p. 116

▼ 次の古語を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

□ 17 にほひ

□ 18 をのこ(男)

□ 19 よろづ

▼ 次の古語の意味をあとのア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

□ 20 あまた

「

「

「

「

□ 22 うつくし

「

「

□ 23 年ごろ

「

ア 趣がある

イ かわいらしい

ウ たくさん

エ 長年の間

9 古文の読解

↓ p. 123

▼ 次の古文で用いられている係りの助詞を抜き出さない。また、その係りの助詞の意味をあとのア～ウから一つずつ選び、記号で答えなさい。

□ 24 神へ参るこそ本意なれ。(徒然草)

「

「

意味

「

□ 25 参りたる人ごとに山へ登りしは、何事かありけん。(徒然草)

「

「

意味

「

ア 強意

イ 疑問

ウ 反語

▼ 次の古文には、「」(かぎカッコ)を付けられる会話文が含まれている。その部分を抜き出さない。

□ 26 船人、答へていはく、あやしき言かなと笑ひて、(竹取物語)

「

「

▼ 次の和歌の——線部に用いられている表現技法をあとのア～ウから一つずつ選び、記号で答えなさい。

□ 27 ちはやぶる神代も聞かず竜田川からくれなゐに水くくるとは

*からくれなゐ 鮮やかな紅色。

在原業平

□ 28 たち別れいなばの山の峰に生ふるまつとし聞かば今帰り来む

*いなばの山 因幡国(今の鳥取県)にある稲羽山。

中納言行平

ア 掛詞

イ 枕詞

ウ 序詞

10 漢文の読解

↓ p. 130

▼ 次の漢文の——線部に、書き下し文を参考にして、返り点を付けなさい。

□ 29 己所不欲、勿施於人。(論語)

〔書き下し文〕己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ。

「己所不欲、」

▼ 次の漢詩の形式を、あとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

□ 30 春曉 孟浩然

春 眠

不 覺 曉

春 眠 曉 を 覚 え ず

処 処

聞 啼 鳥

処 処 啼 鳥 を 聞 く

夜 来

風 雨 声

夜 来 風 雨 の 声

花 落

知 多 少

花 落 つ る こ と 知 る 多 少

ア 五言絶句

イ 五言律詩

ウ 七言絶句

エ 七言律詩

「

「

5章

漢字・語句／文学史

12 漢字の知識

↓ p. 138

▼ 次の文中の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

□ 31 一年間は無料での修理をホシヨウする。 「 」□ 32 鏡に全身をウツす。 「 」

▼ 次の文中の——線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

□ 33 柔和な表情の肖像画。 「 」

□ 34 カメラの性能が著しく向上する。 「 」

▼ 次の漢字の部首名と総画数を答えなさい。

□ 35 退 部首名 「 」 総画数 「 画 」

□ 36 複 部首名 「 」 総画数 「 画 」

13 熟語の知識

↓ p. 144

▼ 次の二字熟語の構成を、あとのア～カから一つずつ選び、記号で答えなさい。

□ 37 興亡 「 」 □ 38 予知 「 」

□ 39 観劇 「 」 □ 40 非凡 「 」

□ 41 緩和 「 」 □ 42 日没 「 」

ア 上下の漢字の意味が似ている

イ 上下の漢字の意味が対になる

ウ 上下の漢字が主語と述語になる

エ 下の漢字が上の漢字の目的・対象になる

オ 上の漢字が下の漢字の修飾語になる

カ 上の漢字が下の漢字を打ち消す

14 語句の知識

↓ p. 150

▼ 次の四字熟語の意味をあとのア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

□ 43 付和雷同 「 」 □ 44 当意即妙 「 」

□ 45 起死回生 「 」 □ 46 以心伝心 「 」

ア ことばを使わなくても心が通じ合うこと。

イ だめになりそうな物事を立て直すこと。

ウ しっかりした考えがなく、他人の意見にすぐ同調すること。

エ その場の状況に、機転をきかせて対応すること。

▼ 次の熟語の対義語をあとのア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

□ 47 偶然 「 」 □ 48 具体 「 」

□ 49 拡大 「 」 □ 50 結果 「 」

ア 抽象 イ 縮小 ウ 原因 エ 必然

▼ 次の慣用句の意味をあとのア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

□ 51 眉をひそめる 「 」 □ 52 肝に銘ずる 「 」

□ 53 腑に落ちない 「 」 □ 54 目から鼻へ抜ける 「 」

ア 利口で機転がきく。 イ 心に深く刻みつける。

ウ 納得できない。 エ 心配事や不快なことがあるさま。

▼ 次のことわざの意味をあとのア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

□ 55 寝耳に水 「 」 □ 56 絵に描いた餅 「 」

□ 57 ぬれ手で粟^{あわ} 「 」 □ 58 情けは人のためならず 「 」

ア 不意のできごとに驚くこと。

イ 苦労せずに多くの利益をあげること。

ウ 人に情けをかけておけば、自分によい報いが来ること。

エ 計画などが実現する可能性のないこと。

▼ 次の故事成語の意味をあとのア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

□ 59 呉越同舟 「 」 □ 60 漁夫の利 「 」

□ 61 温故知新 「 」 □ 62 矛盾 「 」

ア 昔のことを調べて、そこから新しい知識や見解を得ること。

イ つじつまが合わないこと。

ウ 仲の悪い者同士が同じ場所にいること。

エ 二者が争っている間に第三者が利益を手に入れること。

15 文学史

↓ p. 156

▼ 『徒然草』とジャンルが同じ作品を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

□ 63 ア 十訓抄 イ 平家物語

ウ 方丈記 エ 土佐日記 「 」

▼ 夏目漱石の作品でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

□ 64 ア 三四郎 イ 坊っちゃん

ウ こころ エ 高瀬舟 「 」

6章 文法

16 文の組み立て・品詞・用言

↓ p. 158

▼ 次の文を文節に分けるといくつになるか。漢数字で答えなさい。

□ 65 屋根の上で一羽のカラスが鳴いている。 「 」 文節 「 」

▼ 次の文中の——線部の文節相互の関係をあとのア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

□ 66 テーブルの上に新聞紙が置いてある。 「 」 「 」

□ 67 祖父は毎日、近所を散歩する。 「 」

□ 68 叔母は明るくて元気な人だ。 「 」

□ 69 猫がおいしそうに餌を食べる。 「 」

ア 主・述の関係 イ 修飾・被修飾の関係

ウ 並立の関係 エ 補助の関係

▼ 次の文中の——線部の品詞をあとのア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

□ 70 小川がさらさらと流れている。 「 」

□ 71 はい、わかりました。 「 」

□ 72 あの建物が郵便局です。 「 」

□ 73 これが新発売のスマートフォンです。 「 」

□ 74 バイオリンが美しい音色をかなでる。 「 」

□ 75 もう梅雨が明けたようだ。 「 」

□ 76 林の中を通る遊歩道は静かだ。 「 」

□ 77 では、今日の講義はこれで終わります。 「 」

ア 名詞 イ 連体詞 ウ 副詞 エ 接続詞 オ 感動詞

カ 動詞 キ 形容詞 ク 形容動詞 ケ 助動詞 コ 助詞

▼ 次の文中の——線部の動詞の活用の種類をあとのア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

□ 78 あきらめずに継続することが大事だ。 「 」

□ 79 カロリーの高い物を食べない。 「 」

□ 80 文字を丁寧に書こう。 「 」

□ 81 今話題の映画を見た。 「 」

□ 82 もっと早く来ればよかった。 「 」

ア 五段活用 イ 上一段活用 ウ 下一段活用

エ カ行変格活用 オ サ行変格活用

17 助動詞・助詞・意味用法の識別

↓ p. 165

▼ 次の文中の——線部の助動詞の意味・用法をあとのア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

□ 83 さわやかな風に秋の訪れが感じられる。 「 」 「 」

□ 84 山田様はもう会社を出られましたか。 「 」 「 」

□ 85 先生に作文が上手だとほめられる。 「 」 「 」

□ 86 おかずを温めるとおいしく食べられる。 「 」 「 」

ア 受け身 イ 可能 ウ 自発 エ 尊敬

▼ 次の文中の——線部「ない」と同じ品詞のものをあとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

□ 87 駅に行く道がわからない。 「 」 「 」

ア 合意の形成は容易でない。

イ この製品の操作は難しくない。

ウ 玄関の鍵が見つからない。

エ 今日の午後は授業がない。

▼ 次の文中の——線部「の」と同じ意味・用法のものを、あとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

□ 88 あなたの言うことはもっともだ。 「 」 「 」

ア 静かに本のページをめくる。

イ 父のつくった弁当を食べる。

ウ あの人は演説をするのがうまい。

エ なぜこんなことをしているの。

7章 表現

18 敬語・手紙の書き方・スピーチのしかた

↓ p. 172

▼ 次の文中の——線部の語を、正しい敬語に書き直しなさい。

□ 89 お客様は明日の朝食を何時に食べますか。 「 」 「 」

□ 90 先生のご意見を聞きたいです。 「 」 「 」

□ 91 色紙にサインをしてもらえませんか。 「 」 「 」

19 わかりやすい表現・話し合いのしかた

↓ p. 179

▼ 次の文中の——線部の語を、前の部分と正しくつながる形に書き直しなさい。

□ 92 私の希望は、フランスに留学したいです。 「 」 「 」

8章 作文

20 条件作文・課題作文

↓ p. 184

▼ 原稿用紙の書き方を述べた次の文中の□にあてはまる最も適切な語を、あとのア～ウから一つずつ選び、記号で答えなさい。

□ 93 本文の書き出しや段落の初めは□下げる。 「 」 「 」

□ 94 □・符号「 」などは原則として一マス使う。 「 」 「 」

□ 95 句読点や閉じかっこ「）」などが行の初めにくるときは、前の行の□のマスに文字と一緒に書く。 「 」 「 」

ア 句読点 イ 最後 ウ 一字